

吸虫類 *Liliatrema skrjabini* のメタセルカリアが
多数寄生したクロソイの一例
(短報)

若林信一

(1997年3月25日受理)

Heavy Infection of Metacercariae of *Liliatrema skrjabini*
(Digenea: Cathaemasiidae) in Jacopever Rockfish
Sebastes schlegeli
(Short paper)

Shin-ichi WAKABAYASHI*

Abstract

A jacopever rockfish *Sebastes schlegeli* that was heavily infected with *Liliatrema skrjabini* metacercariae was collected in Toyama Bay in the Sea of Japan on April 25, 1995. The metacercariae were widely found in the body from the head to the caudal peduncle. Most of the metacercariae occurred in the musculature of the lateral body and the head, but some were located under the skin of various areas, such as behind the eyes, between the lower jaw and opercula, as well as in the soft tissues near the brain and nasal cavity. No metacercariae were found in the eyes, brain, and fins. As the gills and viscera had been removed, infection in these tissue organs could not be determined.

Key words: *Liliatrema skrjabini*, metacercaria, parasite, *Sebastes schlegeli*

Liliatrema skrjabini は、ヒメウ *Phalacrocorax palagicus* を終宿主とする吸虫類の一種で (Machida 1966)、そのメタセルカリアは、クロソイ *Sebastes schlegeli* の筋肉中から発見されている (大林・紺野 1966; Shimazu 1984)。これらの虫体はいずれも北海道近海のクロソイから得られているが、山口県の日本海側に生息するクロソイにも本種の寄生がみられるとの情報もあり (桃山 1995)、その分布範囲は北海道沿岸から本州沿岸までの広い範囲に及ぶと予想される。

著者は、筋肉中に多数の *L. skrjabini* のメタセルカリアが寄生したクロソイ 1 個体を観察する機会を得た。このクロソイは、1995年4月25日に富山県滑川市地先水域で遊漁者によって釣獲され、富山県水産試験場に持ち込まれた。魚体は鰓と内臓が除去されており、頭部は切り放されて、いわゆる「二枚おろし」の状態であった。そのため正確な魚体長は計測できなかったが、頭長 (吻端から鰓蓋の後端までの長さ) の実測値は85mmであった。魚体は10%中性緩衝ホルマリンで固定

* 富山県水産試験場 (Toyama Prefectural Fisheries Research Institute, Namerikawa, Toyama 936, Japan)
富山県水産試験場業績 A 第54号

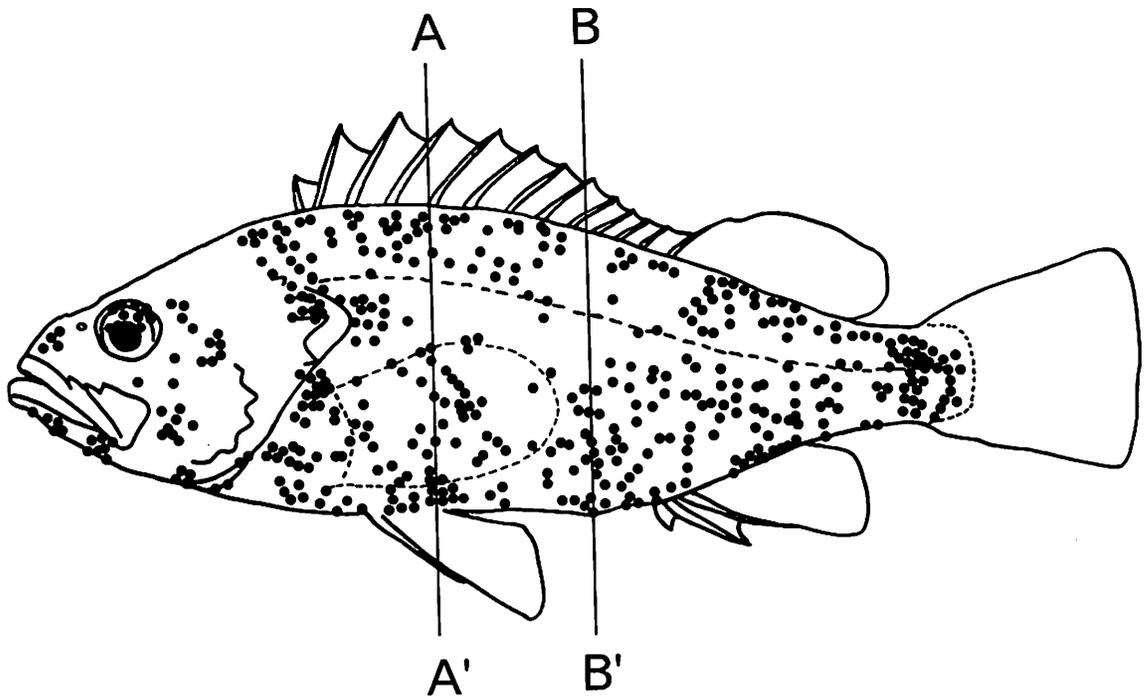


Fig. 1 Distribution (solid circles) of metacercariae of *Liliatrema skrjabini* in the left lateral body of *Sebastes schlegeli* from Toyama Bay.

し、後日、メタセルカリアの観察に供した。

メタセルカリアを内包するシストの大きさは、直径約1mmで、いずれも黒色を呈しており、その内部に *L. skrjabini* のメタセルカリアが存在した。頭部を含む供試魚の左体側部におけるメタセルカリアの寄生位置を Fig. 1 に示した。メタセルカリアは頭部から尾柄部まで体全体にわたり寄生しており、その大部分は体側筋と頭部の筋肉に認められたが、眼球後方の皮下、下顎と鰓蓋の皮下、脳と臭覚器官の連絡部付近（両眼球間の軟組織部）にも認められた。眼球内部、脳及び各鰭にはみられなかった。鰓と内臓は除去されていたのでメタセルカリアの存在は不明であった。供試魚の右体側部の横断面におけるメタセルカリアの寄生位置を Fig. 2 に示した。体表面に近い位置に比較的多くみられ、体中心部では少なかった。

今回の調査では、脳と臭覚器官の連絡部付近の軟組織部にメタセルカリアのシストが観察されたが (Fig. 3)、シストの存在が宿主の臭覚あるいは視覚に何らかの影響を及ぼすものか否かについては不明であった。

L. skrjabini の終宿主はヒメウで、人体への寄生は知られていないが、今回調査したクロソイのように多数の *L. skrjabini* が寄生した場合には食品としての価値を喪失させるであろう。著者は、本報の事例のほかに、富山県沿岸で遊漁者により釣獲されたクロソイに *L. skrjabini* が多数寄生した1例を観察しているが、県東部の市場に水揚げされたクロソイ16尾を購入して調べたところでは、寄生の認められた個体はなかった。クロソイは、主に北日本沿岸における重要な漁獲対象種であることから、今後、我国沿岸のクロソイにおける *L. skrjabini* の分布、寄生率及び寄生数などを明らかにする必要がある。

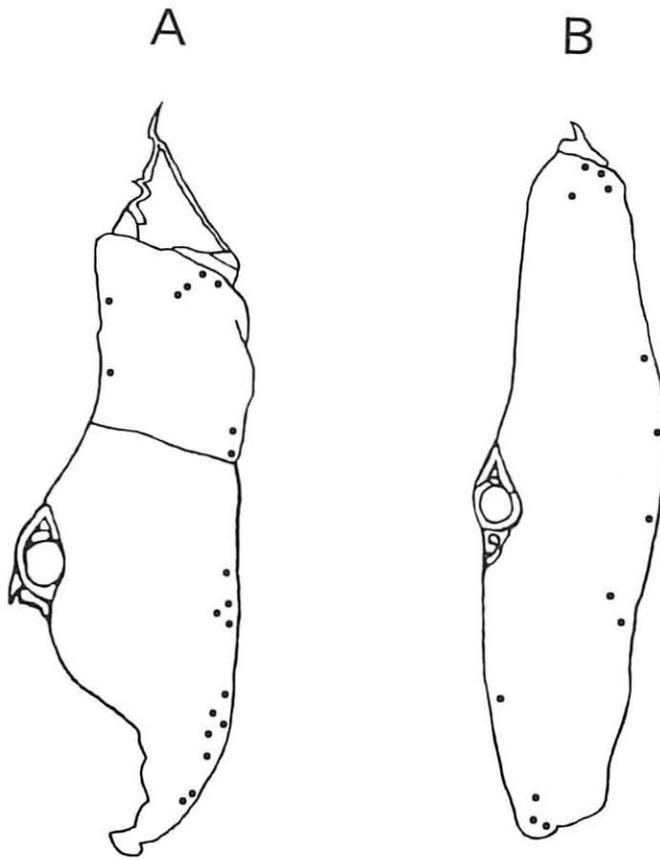


Fig. 2 Distribution (solid circles) of metacercariae of *Liliatrema skrjabini* in the right lateral body of *Sebastes schlegeli* from Toyama Bay. 1 and 2 correspond to A-A' and B-B' sections in Fig. 1, respectively.



Fig. 3 Metacercariae (arrowheads) of *Liliatrema skrjabini* in the the head of *Sebastes schlegeli* from Toyama Bay.

謝

辞

水産庁遠洋水産研究所長澤和也博士には寄生虫の同定，本文のご校閲と文献の供与を賜った。富山県水産試験場職員の皆様には有益なご助言を戴いた。ここに記して感謝の意を表する。

文

献

- Machida, M 1966. Helminths collected from a pelagic shag. Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo **9**, 447-451.
- 桃山和夫 1995. 天然魚介類の寄生虫シリーズ (その4) クロソイの筋肉寄生吸虫. 水試だより ないかい **5**, 12. 山口県内海水産試験場.
- 大林正志・紺野哲郎 1966. クロソイ *Sebastes schlegeli* の筋肉から発見された *Liliatrema skrjabini* Gubanov, 1953 のメタセルカリアについて. 寄生虫学雑誌 **15**, 511-515.
- Shimazu, T 1984. *Proctoeces maculatus* from Wakkanai, northern Hokkaido, Japan, with comments on the validity of some other species in the genus *Proctoeces* (Trematoda: Fellodistomidae). Proc. Jap. Soc. Syst. Zool. **29**, 1-15.